

文殊菩薩ゆかりの五台山と雲崗石窟、龍門石窟の旅 7日間

五台山は文殊菩薩ゆかりの地として多くの大乘仏教徒の巡礼者が多い場所ですが、チベット仏教徒の聖地でもあり、中国で唯一、漢伝仏教とチベット仏教共通の聖地となっています。五台山の他に雲崗石窟、龍門石窟といった中国を代表する石窟寺院を見学するコースです。

1	各地空港 ⇒ 鄭州 空路、河南省の省都・鄭州へ(經由便)	【鄭州泊】
2	鄭州 → 洛陽 洛陽へ 中国三大石窟の一つ龍門石窟を見学	【洛陽泊】
3	洛陽 → 鄭州 → 太原 再び鄭州へ 中国新幹線にて山西省の省都・太原へ	【太原泊】
4	太原 → 五台山 中国四大仏教聖地の一つ五台山へ 五台山参拝	【五台山泊】
5	五台山 → 大同 午前、前日に引き続き五台山参拝 後、大同へ	【大同泊】
6	大同 → 北京 午前、中国四大石窟の一つ雲崗石窟を見学 北京へ	【北京泊】
7	北京 ⇒ 各地空港 着後、入国手続き、税関の後、解散	

五台山(中国仏教四大名山)

標高3,058mの五台山は文殊菩薩ゆかりの聖地です。山内には北魏の時期に大浮図寺と呼ばれる寺が建立され、それ以後、多数の山岳寺院が建立されました。

最も繁栄した時期には300以上の寺が林立していたといわれており、現在でも、台内に39ヶ寺(南山寺、顯通寺、塔院寺、碧山寺、普化寺、観音洞、龍泉寺、金閣寺など)、台外に8ヶ寺(延慶寺、南禪寺、秘密寺、尊勝寺など)の合計47ヶ寺が存在しています。

日本からの入唐僧や入宋僧の多くも、天台山と共にこの山を訪れました。また、チベット仏教徒の信仰も集めており、五台山は中国国内において漢伝仏教とチベット仏教の唯一の共通の聖地です。



五台山



顯通寺



塔院寺の大白塔



南禪寺

龍門石窟(中国三大石窟)

洛陽市内から南12kmの伊河のほとりに連なる巨大な石窟群です。495年前後の北魏時代から約400年にわたって掘り続けられ、南北1kmに連なる石窟群には、大小合わせて約10万體にも及ぶ仏像が彫り込まれています。

龍門石窟の石質は、雲崗石窟の粗い砂岩質と比較して、緻密な礫岩質のため、雲崗のような巨大な石窟を開削することができませんでした。

彫刻の様式は、面長でなで肩、首が長い造形であり、華奢な印象を与える点の特徴です。また、中国固有の造形も目立ち、裳懸座が発達して、装飾も繊細で絵画的な表現がされるようになります。

代表的な石窟は、675年に完成した奉先寺洞です。これは高宗の発願によるもので、皇后の武氏(則天武后)も浄財を寄進しています。本尊の盧舎那仏の顔は、その則天武后をモデルにしたと言う説など諸説ありますが、真相はともかくとして、わずかに微笑みを含んだ慈悲深い顔立ちはとりわけ印象的です。



龍門石窟全景



奉先寺洞

雲崗石窟(中国三大石窟)

大同から西へ16kmの武周山山麓の断崖に造営された石窟群です。460年頃のいわゆる曇曜五窟(第16～20窟)が最初期のもので、三武一宗や太武帝の廃仏の後に興る仏教復興の象徴的存在が、この5窟の巨大な石仏です。その後も大規模な石窟の造営が続けられ(第1～13窟)、雲崗期(460年～494年)と呼ばれる中国仏教彫刻史上の一時期を形成しました。

様式は、最初期の曇曜五窟にはガンダーラやグプタ朝の様式の影響が色濃く、その後の石窟ではギリシア様式の唐草文様で代表される西方起源の意匠も凝らされており、当時の建築様式を模した装飾も豊富に見られます。

しかし、494年以降、初期の雄大な質感は姿を消し、華奢で力強さの感じられない造形が増加します。そして、この傾向の延長線上に龍門石窟期が続きます。雲崗石窟の影響は龍門のみならず、天龍山、南北の響堂山などの広範囲な石窟寺院に及んでいます。



雲崗石窟外観



壁画



窟内の仏像